

# 高校生の恋愛観・性役割観と家族形成意欲に関する調査研究

—男女共同参画社会に向けた若者への支援について—

サイトウ	サチコ	ホシヤマ	ヨシハル	ウチヤマ	アヤコ
齋藤	幸子*1	星山	佳治*3	内山	絢子*4
コンドウ	ヨウコ	ハラ	ミツコ	ミヤハラ	シノブ
近藤	洋子*5	原	美津子*6	宮原	忍*2

**目的** 少子社会における次世代育成策として、虐待やDV（domestic violence）とは無縁の養育力を備えた家庭形成を目標とした、若者への支援について検討する。その資料収集を目的に、高校生の将来の家族形成意欲と恋愛観・性役割観などとの関連を調べることとした。

**方法** 都内3カ所の公立高等学校の1～2年生を対象として、倫理的配慮のもと集団調査法によりアンケートを実施し、2011年1～4月に回収した有効回答554件について分析した。調査内容は、恋愛観、結婚意欲、出産意欲、発達課題（親密性、達成意欲、協調性、自尊感情）、性役割観などであった。分析にあたっては、恋愛について積極的か消極的か、固定的な性役割を肯定するか否かの問いの回答によって、対象を4類型（1群「恋愛積極・性役割肯定」、2群「恋愛積極・性役割否定」、3群「恋愛消極・性役割肯定」、4群「恋愛消極・性役割否定」）に分け、群間の違いを検討した。4群が現在一般で使われている用語でいう「草食系」の概念に近いと考えられる。

**結果** 恋愛に積極的な1・2群は、恋愛に消極的な3・4群に比べて、親密性・家族形成意欲など多くの項目で値が高かった。1群の男性は自尊感情が男女通じて最も高かった。1群の女性は親密性が最も高いが、男女が互いに理解することが難しいと感じていた。2群は1群に次いで親密性、家族形成意欲が高いが、日本の将来は希望がもてると思う割合が最も低かった。3・4群は、ともに自尊感情・親密性が低く、特に3群男性は、子どもや子育てを肯定的に捉える得点が低く、異性の友達が少ないなど、家族形成に最も遠いと思われた。4群男性は、結婚を希望する割合が最も低かった。3・4群の女性は同じ群の男性に比べれば家族形成意識は高く、3群女性の8割、4群女性の7割は結婚を希望していた。

**結論** 男女共同参画社会を目指すわが国における家族形成は、恋愛に積極的で固定的性役割を否定する2群に期待がかかるが、この群が日本の将来に希望を持つ割合が低いことが問題である。一方、恋愛に消極的な3群や4群であっても、将来の家族形成意欲はある程度持っているため、自尊感情、親密性を育み、次世代育成力につながる支援が望まれる。固定的な性役割観をもつ1群については、互いを尊重し共生するための男女のパートナーシップを育み、現代社会に即した家庭形成の支援が必要となることが推察された。

**キーワード** 少子化、男女共同参画社会、次世代育成支援、恋愛観、性役割観、親密性

\*1 日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部主任研究員 \*2 同客員研究員 \*3 横浜創英大学看護学部教授

\*4 目白大学人間学部心理カウンセリング学科教授 \*5 玉川大学文学部人間学科教授

\*6 (社)東京都職員互助会東京都職員総合健康センター学校訪問相談室教育訪問相談員

## I 緒 言

本研究は少子化問題研究の一環として虐待やDV (domestic violence) を予防し、養育力を備えた次世代の家庭形成に寄与することを目標としている。家庭形成の基盤は、男女の関係性のあり方にかかっていると見え、近年わが国においては、以下に示すように気がかりな兆候がみられている。

「第6回青少年の全国性行動調査報告」<sup>1)</sup>では、青少年の性行動が活発化したと言われる現在でも、中学生の9割以上と高校生の約7割、大学生の約4割が性交未経験者であることが指摘されている。「青少年の性行動を一面的に捉え、青少年全体に問題があるように議論するのではなく、青少年の間にある社会的断層に着目して、問題の明確化やターゲットの絞り込みを行っていくことが重要であると考えられる」とされ、青少年の間にみられる性行動のギャップを「分極化」という観点でとえられている。

第14回出生動向基本調査<sup>2)</sup>では、結婚を望んでいる未婚者は9割弱であるが、現在「交際している異性はいない」と回答した割合は、男性61.4% (前回52.2%)、女性49.5% (同44.7%)と、いずれも前回調査に比べて大幅に増えていることが報告されている。

第5回「男女の生活と意識に関する調査」<sup>3)</sup>では、前回調査と比べて、セックスレスの傾向が進んでいることが報告されている。婚姻関係にある男女のうち「1カ月以上セックスが行われていない」割合は40.8%で、過去のデータをみると2004年31.6%、2006年34.6%、2008年36.5%と増加傾向が認められている。

以上の調査データから、現在の若者の多くは家庭形成を望んでいるが、実際の結婚・出産に至る行動は不活発化や分極化している状況が伺える。本研究ではこの状況に着目し、家族形成における男女のパートナーシップ構築の前提といえる、青年期の恋愛観、性役割観、発達課題などを調べ、発達課題得点と家族形成意欲と関連、青年の行動や価値観の分極化などについて

検討することにより、次世代の家族形成支援の一助となる資料を得ようとした。

## II 方 法

### (1) 調査概要

#### 1) 対象と方法

都内3カ所の公立高等学校において、高校1年生・2年生を対象とした「あなたの将来に関するアンケート」を実施した。集団調査法による質問紙調査で(回収率100%)、白紙1件、回答の記入状況不備の2件を除いた有効回答554件について分析した。調査時期は2011年1～4月であった。

#### 2) 倫理的配慮

調査にあたっては被験者のプライバシーに配慮し、調査内容と方法については、日本子ども家庭総合研究所倫理委員会の承認を得た(認証番号第34号、平成22年12月2日)。

#### 3) 調査内容

使用した検査目録は、EPSI (エリクソン心理社会発達段階目録検査) から、前成人期の課題「親密性」7項目(5件法)<sup>4)</sup>、「現代青少年の発達課題に関する研究調査—生活体験と非行との関係を中心として—」<sup>5)</sup>で使用された発達課題(達成動機・協調性・自尊感情各10項目:4件法)で、その他の調査項目は以下に示すとおりである。また、表1には、今回の分析で使用した主なる項目と選択肢を示した。

調査項目一覧: 属性、友達について(2項目)、恋愛観(15項目)、自己の性別受容、親密性(7項目)、達成動機(10項目)、協調性(10項目)、自尊感情(10項目)、携帯・ネット利用(4項目)、職業観(15項目)、大人観(8項目)、結婚・出産について(3項目)、社会観(2項目)、性役割観(3項目)、養育性・世代性(6項目)、心の居場所(2項目)、アンケートへ回答した感想

### (2) 分析方法

将来の結婚志向の程度(以下、結婚意欲)・将来子どもが欲しいか(以下、出産意欲)と発

達課題（親密性、達成動機、協調性、自尊心）との関連をみるために、はじめに相関係数を算出し、次いで、結婚意欲の程度と出産意欲の有無別に発達課題の平均得点を比較した。

さらに、恋愛に積極的か消極的か、固定的な役割を肯定するか否かの問いによって対象を4類型に分け、群間の違いを検討した。類型化にあたって参考にした概念とその方法は、以下のとおりである。

冒頭に示したごとく、わが国では性行動の不活化傾向が指摘されており、ジャーナリズムでは「草食系」という言葉が使われるようになってきている。「草食系」は学術用語として確立するには至っていないと思われるが、その定義について述べておくと、以下のように論者に

よって若干異なっている。深澤は「恋愛やセックスに『縁がない』わけではないのに『積極的』ではない、『肉』欲に淡々とした『草食男子』」と定義した<sup>6)</sup>。森岡は、草食系男子を「『新世代の優しい男性』」のことで、異性をがつつと求める肉食系ではない、異性と肩を並べて優しく草を食べることを願う草食系の男性のこととしたが<sup>7)</sup>、その後、「草食系男子とは、心が優しく、男らしさに縛られておらず、恋愛にガツガツせず、傷ついたり傷つけたりすることが苦手な男子のこと」と再定義した<sup>8)</sup>。また、高橋は、日本性教育協会が実施している性行動調査の結果から、性的関心がない、性交経験がないものを草食系と理解し、この条件を満たす若者が増加していることを示している<sup>9)</sup>。

表1 主要質問項目一覧

<p><b>結婚意欲</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ( ) 歳までに結婚したい</li> <li>2. 時期は決めていないが結婚したい</li> <li>3. まったくわからない</li> <li>4. 結婚はしないつもり</li> </ol> <p><b>出産意欲</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ( ) 人くらい欲しい</li> <li>2. わからない</li> </ol> <p><b>親密性</b> (5件法：文献4) より引用)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰かに個人的な話をされると、私は、とまどってしまう<sup>1)</sup></li> <li>2. 私は、特定の人と深いつきあいができる</li> <li>3. 私は、あたたかく親切な人間である</li> <li>4. 私は、もともとひとりぼっちである<sup>1)</sup></li> <li>5. 私は、他の人たちと親密な関係を持っている</li> <li>6. 私は、他の人よりも目立つのを好まない<sup>1)</sup></li> <li>7. 私は、他の人たちとなかなか親しくなれない<sup>1)</sup></li> </ol> <p><b>達成動機</b> (4件法：文献5) より引用)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来やりたい仕事につくために、いつもがんばっている</li> <li>2. 困難なことにつぶかると、かえってやる気ができる</li> <li>3. 将来何をしたいか、目標をもっている</li> <li>4. 自分の能力を最大限伸ばせるよう、なんでもやってみる</li> <li>5. これまでと違ったことでも、すすんでやる</li> <li>6. 試験で悪い成績をとると、次にはがんばろうと思う</li> <li>7. 今までに経験したことのないことをしてみたい</li> <li>8. 努力しても成功しないと思う<sup>1)</sup></li> <li>9. 苦労するより自分のできる範囲で、のんびりやりたい<sup>1)</sup></li> <li>10. 人からなまけ者といわれても、楽をしてほしい<sup>1)</sup></li> </ol> <p><b>協調性</b> (4件法：文献5) より引用)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラス会 (ホームルーム) で決まったことには従う</li> <li>2. 性格や意見の違う人でも上手につきあっている</li> <li>3. 友達と遊んだりいっしょに過ごすのが好きだ</li> <li>4. 学校行事があるときは、友達と協力して何かをする</li> <li>5. 少しくらいいいやなことがあっても、不機嫌な様子は見せない</li> <li>6. たとえきらいな友達でも、クラスの仕事は一緒にできる</li> <li>7. 決められた役割はきちんとこなせる</li> <li>8. 仲のよい友達はいない<sup>1)</sup></li> <li>9. 苦手なゲームやスポーツでも、みんなと一緒にする</li> <li>10. 人が悲しんでいるのを見ると、自分も悲しくなる</li> </ol>	<p><b>自尊心</b> (4件法：文献5) より引用)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私は人から頼りにされている</li> <li>2. けがや病気をしないよう注意している</li> <li>3. 自分がきらいである<sup>1)</sup></li> <li>4. 自信がある</li> <li>5. まわりの人と意見が違っても、自分が正しいと思うことを主張できる</li> <li>6. 自分でなりたい職業につけると思う</li> <li>7. 私は役に立たない人間だと思う<sup>1)</sup></li> <li>8. 私には、他の人がない、よいところがある</li> <li>9. 私がいなくなったら、学校の友達は悲しむと思う</li> <li>10. 私がいなくなったら、親 (または親に代わる人) は悲しむと思う</li> </ol> <p><b>恋愛経験と恋愛観</b> (複数選択回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私のことを理解してくれる同性の友達がいる</li> <li>2. 私のことを理解してくれる異性の友達がいる</li> <li>3. 現在つき合っている恋人がいる</li> <li>4. 早く恋人が欲しい</li> <li>5. 出会った瞬間に恋に落ちるのが恋愛だと思う</li> <li>6. 最良の愛は友情から育つと思う</li> <li>7. いつか人生をともにするパートナーに出会えると思う</li> <li>8. 好きな人が出来たら、何とかして相手に自分の気持ち伝えたい。</li> <li>9. 愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわないと思う</li> <li>10. 私は、どちらかという草食系である<sup>2)</sup></li> <li>11. 私は、どちらかという肉食系である<sup>2)</sup></li> <li>12. デートは男性から誘うべきである</li> <li>13. 女性からプロポーズしてもかまわない</li> <li>14. 異性とつき合うのは面倒である</li> <li>15. 失恋をしたことがある</li> <li>16. 男性と女性が、互いのことを理解するのは難しい</li> <li>17. 恋愛よりも楽しいこと (趣味など) がある</li> <li>18. 自分の性 (男または女) に生まれてよかった</li> </ol> <p><b>性別役割観</b> (4件法)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである</li> <li>2. 共働きの夫婦でも、家事や育児はもっぱら女性がした方がよい</li> </ol>
---	---

注 1) は逆転項目  
 2) 草食系・肉食系についての定義は示さず設問した。そのため解釈は分かれた可能性がある。その分析結果は紙幅の関係で割愛するが、両項目を使用しての対象の分類は不適切であることが判明したため、本文に示した方法によって類型化を行った。

そこで、若者の恋愛行動が活発な群とそうでない群の二極化していることと、いわゆる草食系が増えていることを想定し、恋愛に対する積極性、男または女らしさにしられるかどうか、ここでは、固定的な性役割に肯定的か否かによって、対象を4類型に分けて群間を比較することとした。

類型化の方法は、まず複数回答で求めた恋愛経験と恋愛観に関する調査項目(表1)から「3. 現在つきあっている恋人がいる」「4. 早く恋人が欲しい」「8. 好きな人ができたら、何とかして相手に自分の気持ちを伝えたい」「9. 愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわない」「11. 私は、どちらかという肉食系である」の5項目のいずれかを選択した場合を各1点とし、合計得点が2点以上を「恋愛積極群」、1点以下を「恋愛消極群」とした。固定的性役割については別途設問した「男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするも

のである」「共働きの夫婦でも、家事や育児はもっぱら女性がした方がよい」の2項目(4件法)各4点で合計6点以上を「性役割肯定群」、5点以下を「性役割否定群」とした。2つの分類をクロスさせ、図1に示す4つの類型(1群「恋愛積極・役割肯定」、2群「恋愛積極・役割否定」、3群「恋愛消極・役割肯定」、4群「恋愛消極・役割否定」)に分けた。

群間の比較における有意差判定はKruskal-Wallisの順位和検定、多重比較はScheffeで行い、危険率0.05以下を有意差ありとした。

### Ⅲ 結 果

#### (1) 回答者の属性

有効回答554件の各属性の内訳は、男性265名(47.8%)、女性289名(52.2%)、年齢は、15歳50名(9.0%)、16歳366名(66.1%)、17歳138名(24.9%)、学年は1年生258名(46.6%)、2年生293名(52.9%)、不明3名(0.5%)であった。家庭状況としては、両親と同居は7割、

図1 恋愛に対する積極性・固定的性役割の肯定否定別類型分け

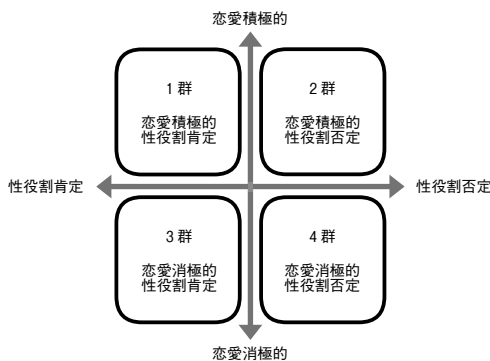


表2 家族形成意欲と発達課題得点の相関

変数	vs. 変数	n	$\rho$	p 値
結婚意欲	出産意欲	535	0.628	<0.0001
	親密性	535	0.347	<0.0001
	達成課題	543	0.179	<0.0001
	協調性	537	0.264	<0.0001
	自尊感情	537	0.306	<0.0001
出産意欲	親密性	528	0.272	<0.0001
	達成課題	536	0.175	<0.0001
	協調性	531	0.177	<0.0001
	自尊感情	530	0.196	<0.0001

注 ノンパラメトリック：Spearmanの順位相関係数  $\rho$

表3 家族形成意欲別発達課題得点 (n=554)

	n	親密性			達成意欲			協調性			自尊感情		
		平均	標準偏差	p 値	平均	標準偏差	p 値	平均	標準偏差	p 値	平均	標準偏差	p 値
結婚意欲													
( ) 歳で結婚したい	273	17.2	4.0	<0.0001	27.1	4.9	0.0004	30.2	4.2	<0.0001	26.0	5.1	<0.0001
時期未定結婚したい	140	15.5	3.4		26.1	4.4		29.6	3.8		24.5	4.0	
全くわからない	82	13.4	3.8		25.0	5.5		27.4	4.0		22.5	4.6	
結婚はしない	52	13.5	4.8		24.5	5.9		26.6	4.6		22.2	5.0	
出産意欲													
子ども欲しい	365	16.7	4.0	<0.0001	26.9	4.7	<0.0001	29.9	4.1	<0.0001	25.4	4.9	<0.0001
わからない	175	14.2	4.2		25.0	5.5		28.1	4.5		23.4	4.9	

注 Wilcoxon, Kruskal-Wallisの順位和検定

母または父と同居などが3割、きょうだいあり8割、なし2割であった。

(2) 家族形成意欲と発達課題得点との関連  
結婚意欲と発達課題、出産意欲と発達課題と

の間の相関係数を表2に示した。親密性は7項目からなる「0. 全くあてはまらない」～「4. とてもよくあてはまる」の5件法で、うち4項目は逆転項目であり、その得点を逆転させて合算した。達成動機・協調性・自尊感情は

表4 恋愛に対する積極性・固定的性別の肯定否定による4類型別比較の集計結果

	恋愛積極的				恋愛消極的				順位 和検 定	多重比較 (Scheffe)					
	性別肯定		性別否定		性別肯定		性別否定			1-2	1-3	1-4	2-3	2-4	3-4
	1群 (男性39, 女性31)		2群 (男性82, 女性96)		3群 (男性36, 女性22)		4群 (男性108, 女性140)								
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差							
発達課題															
親密性															
男性	17.5	4.0	17.0	4.2	14.6	4.2	14.5	3.9	**	*	**	*	**		
女性	18.2	4.4	17.2	3.7	14.9	3.5	14.8	4.1	**	*	**		**		
自尊感情															
男性	28.3	4.1	26.5	4.6	24.4	5.5	24.3	4.3	**	**	**		*		
女性	25.9	4.7	24.0	5.3	23.4	5.4	23.6	4.8							
子ども観・子育て観 (4件法)															
子どもは、家庭に明るさや活力を与える															
男性	3.4	0.7	3.4	0.7	2.9	1.0	3.3	0.7	**	*		*			
女性	3.6	0.6	3.4	0.7	3.5	0.5	3.3	0.8							
子どもを育てることは、やりがいがある															
男性	3.4	0.7	3.4	0.7	2.8	1.1	3.1	0.8	**	*		*			
女性	3.4	0.7	3.4	0.7	3.5	0.6	3.3	0.8							
ワーク・ライフ・バランス (生活で大切なこと：4件法)															
女性が出産や育児をしながら働き続けられる															
男性	2.9	0.8	3.0	1.0	2.8	1.1	2.9	0.9		**		**	**		*
女性	2.9	0.9	3.5	0.6	3.0	0.7	3.5	0.7	**	**		**	**		
家族や友人、恋人と過ごす時間がとれる															
男性	3.5	0.7	3.7	0.5	3.1	0.9	3.2	0.8	**			**	**	**	*
女性	3.6	0.7	3.8	0.5	3.5	0.7	3.5	0.6	*					*	
社会観 (4件法)															
日本の将来には希望が持てる															
男性	2.6	0.9	2.1	1.0	2.5	1.2	2.1	0.9	**	*		*			
女性	2.5	0.8	2.0	0.9	2.2	0.9	2.2	0.8	*	*					
通信利用															
メール (件数/日)															
男性	28	31	24	27	10	15	14	24	**		*				
女性	35	37	27	30	21	26	17	21	**		*		*		
電話 (分/日)															
男性	15	30	13	27	3	8	6	20	*						
女性	35	57	16	38	22	37	8	14	**		**				
家族形成意欲 (肯定割合：%) <sup>2)</sup>															
結婚意欲															
男性	85		87		61		55		**		*	**	**	**	*
女性	94		83		82		72		**		*		*		
出産意欲															
男性	82		77		44		47		**		**	**	**	**	
女性	84		77		68		63		*						
男女の関係性 (肯定した割合：%) <sup>2)</sup>															
私のことを理解してくれる異性の友達がいる															
男性	64		55		14		21		**		**	**	**	**	*
女性	55		54		50		35		*					*	
デートは男性から誘うべきである															
男性	51		39		25		14		**	**	*	**			
女性	71		35		32		26		**	**	*	**			
男女が互いを理解するのは難しい															
男性	59		57		44		40		**		**				
女性	74		53		45		41		**		**				

注 1) \*p<0.05 \*\*p<0.01  
2) グミー変数で検定を行った。

各10項目からなり、「1. 全くあてはまらない」～「4. よくあてはまる」の4件法で、うち6項目が逆転項目で、同じく得点を逆転させて合算した。それぞれの内的整合性（Cronbachの $\alpha$ 係数）は、親密性0.601、達成動機0.772、協調性0.709、自尊感情0.777であった。

表2において、いずれも有意な正の相関が認められたが、結婚意欲と出産意欲の相関係数が0.628と最も高い値を示した。4領域の発達課題については、結婚意欲との相関では、結婚意欲と親密性の相関係数が0.376、結婚意欲と自尊感情が0.306とそれぞれ中程度の相関が認められ、出産意欲との相関では、出産意欲と親密性の相関係数が最も高く0.272となっていた。さらに、結婚意欲別、出産意欲別に算出した各発達課題得点の平均値の比較を表3に示した。いずれの結果も、危険率1%以下で有意な差が認められ、結婚意欲や出産意欲がある群の方が、結婚意欲や出産意欲がない群に比べて、各発達課題の平均得点が高かった。

### (3) 恋愛への積極性と固定的性役割観についての類型分けによる分析

図1に示した4類型の男女別各群の内訳は、1群「恋愛積極・性役割肯定」70名（男性39、女性31）、2群「恋愛積極・性役割否定」178名（男性82、女性96）、3群「恋愛消極・性役割肯定」58名（男性36、女性22）、4群「恋愛消極・性役割否定」248名（男性108、女性140）であった。各群の占める割合は、1群13%、2群32%、3群11%、4群45%で、男女ともに4群が最も多く、3群が最も少なかった。

4類型、性別に他の項目とクロス集計を行い、多重比較により有意な差が認められた項目について表4に示した。表をみると、多くの項目で、恋愛に積極的な1群と2群の値が、恋愛に消極的な3群または4群に比べて高くなっており、有意な差は1-3群間、1-4群間、2-3群間、2-4群間で多く認められた。細かくみるとさらに性差も認められ、以下では4類型別に性差を含めたそれぞれ特徴を述べる。なお「結婚意欲あり」は、「1. ( )歳までに結婚した

い」または「2. 時期は決めていないが結婚したい」を選択した場合で、「出産意欲あり」は「1. 子どもが( )人くらい欲しい」を選択した場合である。結婚意欲と出産意欲の両者を合わせて「家族形成意欲」と称する。

#### 1) 1群「恋愛積極・性役割肯定」

恋愛に積極的で、性役割に肯定的な1群は、全体の13%であった。結婚意欲ありの割合は、男性85%、女性94%であった。男女ともに親密性、自尊感情、家族形成意欲、「日本の将来には希望が持てる」の得点が他群に比べて高く、メールや電話の利用が最も多かった。

男女別にみると、1群男性は、自尊感情が4つの群の男女を通じて最も高かった。また、男性群の中では異性の友達のいる割合が最も高く、子どもや子育てに関して最も肯定的であった。1群の女性は、結婚意欲ありの割合が94%と男女を通じて最も高かった。メールやネット利用も群を抜いて多く、人付き合いが最も活発にみえるが、「デートは男性から誘うべき」「男女が互いに理解するのは難しい」とする割合も群を抜いて高かった。

#### 2) 2群「恋愛積極・性役割否定」

恋愛に積極的で、性役割に否定的な2群は、全体の32%を占めていた。結婚意欲ありの割合は、男性87%、女性83%であった。2群は男女ともに親密性、自尊感情、家族形成意欲、子ども観、子育て観、メール件数などにおいて、1群と同等か1群に次いで得点が高い項目が多かった。また、ワーク・ライフ・バランスの2項目においては、男女ともに4つの群のなかでそれぞれ最も高い得点を示した。一方、「日本の将来には希望が持てる」の得点は、男女ともに4つの群のなかで最も低かった。

#### 3) 3群「恋愛消極・性役割肯定」

恋愛に消極的で、性役割に肯定的な3群は、全体で占める割合が最も低く11%であった。結婚意欲ありの割合は、男性61%、女性82%であった。3群は男女ともに親密性、家族形成意欲など1群または2群と比べて低い項目が多かった。特に3群の男性は、4つの群の男女を通じて最も低い値をとる項目が多く、出産意欲、

子ども観、子育て観、ワーク・ライフ・バランスの2項目、メール・電話の利用数、異性の友達ありの値が全体で最も低かった。

#### 4) 4群「恋愛消極・性役割否定」

恋愛に消極的で、性役割に否定的な4群は、全体で占める割合が最も高く45%であった。結婚意欲ありの割合は、男女ともに4つの群のうちそれぞれに最も低く、男性55%、女性72%であった。4群は、1群または2群と比べて、親密性、家族形成意欲が低いことや、メールや電話の利用数が少ないことなど3群と同傾向を示す場合が多く、3-4群間で差が認められたのは、女性におけるワーク・ライフ・バランスの1項目のみ(4群の方が高い)であった。

4群の男性は、4つの群の男女を通じて親密性が最も低く、「デートは男性が誘うべき」とする割合が最も低いなど、前出の「草食男子」があてはまりそうであった。一方4群の女性は、親密性、家族形成意欲、メールや電話の利用、男女の関係性などで女性の中では最も低い値をとることが多かったが、4群の男性と比べるとそれを上回る項目が多かった。

## IV 考 察

高校生の家族形成意欲と発達課題得点、恋愛観、性役割観などを調べ、それらの関連を明らかにした。まず、発達課題の得点と家族形成意欲の間に正の関連があることを示した。筆者らはこれまでの調査研究で<sup>10)</sup>、人格の成熟と次世代育成力との関連を示してきたので、今回もこれを追究した結果といえよう。青年期の発達課題達成を促し、スムーズな成人期への移行を支援することが、将来の家族形成への一助なるものと考えられる。その具体策を探るために、以下では対象を恋愛への積極性と固定的な性役割に関して肯定的か否かによって分けた4類型別の検討を行う。

1群「恋愛積極・性役割肯定」は、人とのつき合いが活発で親密性が高かったため、カップル形成に至る可能性は高く、性別役割分担に基づいた家族形成を志向すると考えられる。1群

の男性は自尊感情が高かったが、家族を形成する上では、自分を大切にする感情を他者へも向けられるようになることが期待されよう。1群の女性は、恋愛に積極的で、前出の「草食男子」の対立概念としてマスコミで使われている「肉食女子」という表現がふさわしいと思われる面がある一方、男性にリーダーシップを求めるといった固定観念に縛られる傾向がみえた。また、「男女が互いを理解するのは難しい」と感じていることから、パートナーと好ましい関係を育み、家族として成長していくためには、将来何らかの支援の必要が生じることも推察される。

2群「恋愛積極・性役割否定」は、発達課題の得点、家族形成意欲が1群について高く、項目全般では性差が小さいことが特徴といえた。固定的な性役割にとらわれず、平等感に基づいた家族形成を志向すると考えられ、わが国の目指す男女共同参画社会に即したライフスタイルが期待できよう。しかし2群の特徴としては、「日本の将来には希望が持てる」の得点が、男女ともに4つの群の中でそれぞれ最も低かったことが問題点として指摘できる。2群の男女がなぜそのような感じているのか、希望を持てる社会とはどんな社会であるのかを明確化することは今後の課題としたい。

3群「恋愛消極・性役割肯定」は、1・2群に比べて親密性や家族形成意欲が低かった。特に男性は、4つの群の男女を通して最も低い値をとる項目が多く、カップル形成からは最も遠い位置にあるといえる。しかし、3群の男性を成人期への移行過程の青年としてみた場合、家族形成意欲の有無に関わらず、低い自尊感情や親密性に対応した支援の必要性は高いといえよう。一方、3群の女性は82%に結婚意欲があり、「子育てはやりがいがある」の得点は最も高く、伝統的な女性役割を担う形の結婚を望んでいると考えられる。3群の男性と同様に、自尊感情の低さが認められたので、結婚や子育てを通じて自身が成長できるような支援が、次世代の家庭支援の観点から大切であると考えられる。

4群「恋愛消極・性役割否定」は、結婚意欲

が4つの群の中で最も低かった。前出の「草食系」にあてはまるとされるこの群が全体の45%を占めたことや、男性の結婚意欲ありが55%と特に低かったことは、少子問題にとって憂慮すべき事態といわざるを得ないであろう。しかし、4群の女性の72%には結婚意欲があり、63%には出産意欲があった。4群の女性は、現在のところは恋愛に消極的であっても、将来は結婚して家庭を築く可能性が少なからずあるということである。以上のように男女間に違いが認められた4群であるが、3群と同様に、家族形成意欲の有無に関わらず、低い自尊感情や親密性に対応した支援が青年期から成人期への移行上必要であると考えられる。

本研究により、4類型別および性別にそれぞれの特徴が明らかになり、若者の行動や価値観が分極化しているという説は支持されたといえよう。現代の若者を一律に捉えるのではなく、各層が存在することおよび性差があることを認識し、それぞれのニーズに即した支援策を講ずることが望まれる。そのような実効性をもった若者支援が、養育力を備えた次世代の家庭形成につながるものと考えられる。

## V 結 論

発達課題得点と家族形成意欲とは正の相関があることが明らかになり、青年の行動や価値観が分極化しているという説は支持された。男女共同参画社会を目指すわが国における家族形成は、恋愛に積極的に固定的性役割を否定する2群に期待がかかるが、この群が「日本の将来に希望が持てない」としていることが問題である。一方、恋愛に消極的な3・4群であっても、将来の家族形成意欲はある程度もっているため、自尊感情や親密性を育み、次世代育成力につながる支援が望まれる。固定的な性役割観をもつ1群については、女性が「男女が互いを理解するのは難しい」と感じていたので、互いを尊重し共生するための男女のパートナーシップを育み、現代社会に即した家庭形成の支援が必要となることも推察された。

## 謝辞

この調査は、日本子ども家庭総合研究所のチーム研究として実施した。アンケートに回答してくださった多くの高校生および調査実施に協力いただいた学校関係者に深謝申し上げる。本稿執筆に当たり貴重な助言をいただいた元国立社会保障・人口問題研究所の佐藤龍三郎先生に深謝申し上げる。

## 文 献

- 1) 日本性教育協会編、「若者の性」白書 青少年の性行動全国調査報告第6回。東京：小学館、2007：50-1.
- 2) 第14回出生動向基本調査・「結婚と出産に関する全国調査」独身者調査の結果概要、国立社会保障・人口問題研究所ホームページ。(http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14\_s/doukou14\_s.asp) 2011.11.25.
- 3) 北村邦夫、安達知子、中村好一、他。「第5回男女の生活と意識に関する調査」結果。平成22年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」、分担研究報告書「人工妊娠中絶の減少要因に関する研究」、平成23年3月：14.
- 4) 中西信男、佐方哲彦。EPSI-エリクソン心理社会的段階目録検査-。上里一郎監修。心理アセスメントハンドブック第2版。東京：西村書店。2001：365-76.
- 5) 総務庁青少年対策本部。現代青少年の発達課題に関する研究調査-生活体験と非行との関係を中心として-。平成7年3月：101.
- 6) 深澤真紀。第5回草食男子。日経ビジネスオンライン。日経BP社。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20061005/111136/?rt=nocnt) 2006.10.13.
- 7) 森岡正博。草食系男子の恋愛学。東京：メディアファクトリー。2008：207.
- 8) 森岡正博。最後の恋は草食系男子が持ってくる。東京：マガジンハウス。2009：7.
- 9) 高橋征仁。社会統計でみる<草食系男子>の虚実～欲望の時代からリスクの時代へ。現代性教育研究月報。2010：28(1)：1-7.
- 10) 齋藤幸子、宮原忍、近藤洋子。ジェネラティビティを上位概念とした次世代育成力に関する研究-少子化の根底にあるもの-。母性衛生。2010.4：51(1)：180-8.